

結核アーカイブの今後の取り組み(要約)

TBアーカイブ委員会

委員長 石川 信克

昨年度は開催できずにいたが、令和2年10月16日(金)にWeb会議方式で開催した。外部委員の全員、青木純一、渡部幹夫、福田真人、森孝之の各氏、筆者以外の内部委員では加藤誠也、工藤翔二、羽入直方、前川眞悟、小林典子、慶長直人、岡輝明の各氏が出席し、活発かつ有益な議論が展開された。

病理標本の保存

慶長委員、岡委員より病理標本の保存に関して、本年度中にリストを作成する予定で標本の樹脂化も検討中と報告がされた。

HPの閲覧

結核予防会HPのTBアーカイブページにアクセスしやすくしてほしい、という要望があった。事務局から、トップページから数回クリックしないと辿り着かないが、最初から「結核アーカイブ」と検索すると、容易にアクセスできると説明され、今後の課題とした。

資料保存・管理

結核研究所の図書室には重複している資料がある。資料目録を作成しているが、貴重度の選別が必要である(青木委員)。厚生労働省や地方公共団体では相当な資料が廃棄されている。金銭的問題があるが、一部だけを残していく保存方法もある。大学研究機関については、京都大学が結核関係の資料を全て廃棄しているため、大学研究機関の基本的な姿勢の見直しが望まれる(福田委員)。

資料の公開

資料の性質上、情報を取りにきてもらうことが大切である。清瀬市と連携して常設展示ができればよいのではないかと(青木委員)。戦前戦後の映画のDVDに関しては、リストのみHPに載っていて、結核研究所図書室訪問者がみられる仕組みになっている(事務局)。

英語版の作成や他の医学資料、民俗資料、データベースとの連携を図っていくことが大切である。個々の病院の年代ごとの資料保存状況が一覧になっておりターゲットを絞って資料を閲覧、研究できるようになることが理想である。DVDや資料の電子化により様々な人が自由に入手できるような保存の仕方、古いカルテ

等の集中的管理ができればよい(福田委員)。

ジャーナル等の電子化が重要。アメリカ議会図書館には、京都大学が廃棄した資料の英語版が残っている。結核研究所図書室と他研究機関の連携を図っていくべきである。昭和17年の日本医学会総会は7題のうち5題が結核であり、日本医師会と順天堂大学の図書館に製本されたものが残っている(渡辺委員)。

北里柴三郎先生の結核に関連した資料

北里研究所では、病院の前身として土筆ヶ岡養生園という結核専門病院を開設していたが、第二次世界大戦の空襲により施設が焼けてしまったため、一般市民の啓発に向けた資料は「結核絵解図」だけが残っている。結核に関する研究は北里博士とコッホが共同で行っていたため、関連論文はある(森委員)。

前向きな情報発信

資料目録の作成、電子化、発信方法が重要である。結核予防会ではHPで資料を公開しているが、一般人にはたどり着きにくい。定期的に講演会や展示会を催すことで、一般人の目に触れる機会が増えるのではないかと。北里柴三郎記念室では巡回展を行うと地方に眠っている資料が出てくることがあり、外に出て情報を発信することは一つの手段である。世界結核デーに準じて、何かイベントを行うことも良い(森委員)。

まとめ

資料の保存だけでなく積極的な収集も重要。場所や劣化の問題があるため資料の電子化を進めるべき。資料公開に関し、今回の世界結核肺疾患連合総会がバーチャルになり、古い写真や映画をバーチャルブースに掲示し、世界の人々に結核予防会や婦人会の活動を紹介することができた。日本の結核の歴史が国際的に活用され、アーカイブ事業の大きな目的を達した。清瀬市市制施行50周年式典では、渋谷市長が清瀬市と結核について時間を費やして述べた。北里研究所など各団体と連携し、一般の方や発展途上国の役に立つよう取り組みたい。巡回展の提案について、結核予防会支部、明治村の施設の協力を得てイベント等を各地域で行うことも考えられる(加藤委員)。